「(1)」
昭和42年3月24日東京郵政局
昭和40年2月8日第三種郵便物認可（3の日発行）

☆帝国主義国、後進国、「労働者国家」
三ブロック階級闘争を
世界プロ独－世界共産主義の勝利へ！
共産主義者同盟（戦旗派）

10月23日
毎月3回 3の日発行
第280号
編集発行人 島島 島
一部 50円
購読料(3部)1,200円(〒共)

戦旗

戦旗社
東京都千代田区三崎町2－7－6 滝沢ビル内電話番号
03(264)2962 郵便 東京(0)

10月31日 自衛隊パレード粉砕闘争
清水谷公園
11月1日 破防法弾圧体制と闘う講演集会 明大本校552教室 1時
11月10日 沖縄全島ゼネスト

1971年10月23日 第280号

10・21 四谷 機動隊二個小隊を殲滅

正規軍戦勝利の戦果を踏み固め 佐藤 帝国主義 政府打倒へ鉄火の進撃を

全国の労働者・学生・農民・中間層の兄弟諸君！「機動隊撃滅！沖縄返還協定粉砕！佐藤（帝国主義）政府打倒」を掲げた今秋闘争は、あの三里塚闘争に引き続き、10・21新宿における「新宿騒乱」闘争に、中核派の「機動隊撃滅」の戦術を武器として、佐藤政府の「機動隊温存」の方針を粉砕し、機動隊の三個小隊を殲滅するという、歴史的な大勝利をかちとった。

この戦闘は、「新宿騒乱」闘争の中で、

沖青同「沖縄国会」を粉砕

沖縄「返還」策動を糾弾

七・二七沖縄闘争弾圧から、一二・一四中核派一斉逮捕に、国内での治安弾圧の強化と、沖縄「返還」協定の国会強行採決を目前にした、沖青同の全国会議は、「本二・二九沖縄闘争の総括と沖青同（沖縄青年同盟）の沖縄闘争に関する当面の問題」を議題として、沖縄「返還」協定粉砕の闘いを、全国的に展開することを決定した。

一二・一四中核派一斉逮捕は、日本帝国主義の、沖縄「返還」協定の国会強行採決を目前にしての、沖縄闘争の圧殺を目的とした、反革命弾圧であり、「沖縄闘争」を、「国内問題」化しようとする

10・14共産同戦旗派 政治集会基調報告

共産同（戦旗派）政治集会は戦争・沖縄・農民・学生・市民の闘争と六・六安保闘争、六・八安保粉砕の闘いの総括問題、次々と開催される六・六安保粉砕の闘争、また三里塚闘争、沖縄返還闘争、農民闘争、学生闘争、市民の闘争などを通じて、「国際主義」の旗のもとに、「国際主義的共闘」を闘いとるための諸問題を明らかにしてきた。そして、その基本的問題が、明らかにされてきたのである。

六・六安保「二〇・八」闘の闘いは、それまでの闘争を総括し、「国際主義」の旗のもとに、「国際主義的共闘」を闘いとるための、諸問題を明らかにしてきた。そして、その基本的問題が、明らかにされてきたのである。

六・六安保「二〇・八」闘の闘いは、それまでの闘争を総括し、「国際主義」の旗のもとに、「国際主義的共闘」を闘いとるための、諸問題を明らかにしてきた。そして、その基本的問題が、明らかにされてきたのである。

自由諸党派は、国際共産主義の旗のもとに、「国際主義的共闘」を闘いとるための、諸問題を明らかにしてきた。そして、その基本的問題が、明らかにされてきたのである。

しかし、共産同（戦旗派）は

ブント・コンプレックスのヒステリー集団＝中核派の反動的敵対を粉砕せよ

共産主義青年同盟全国委員会

全国の同盟諸君！革命的青年！学生！市民のみなさん！ブント（共産同）は、今十二月闘争を前に共産同内部の問題を明確にし、共産同内部の問題を明確にすることによって、六〇年代闘争を闘うわれわれの革命的闘争を発展させようとしているのである。そして、そのことは、日本の階級闘争の発展のためにもっとも有効なことである。

今春中核派は、「第二の六〇年安保闘争」を目指すとの宣言を発し、「第二の六〇年代闘争」を開始しようとしてきている。そして、そのことは、日本の階級闘争の発展のためにもっとも有効なことである。

まず第一に、この間の中核派のたたかいは、「第二の六〇年代闘争」の開始を目指すブロレタリア人民の自己満足的な闘争であった。

しかしながら、中核派のこのたたかいは、当時の階級ブロレタリア人民の「第二の六〇年代闘争」の開始を目指すものであったのだ。われわれは、中核派のこのたたかいを、「第二の六〇年代闘争」の開始を目指すものとして、自己満足的な闘争であるとしてきたのである。

中核派のこのたたかいは、「第二の六〇年代闘争」の開始を目指すものとして、自己満足的な闘争であるとしてきたのである。

それは、「六〇年代闘争」の開始を目指すものとして、「第二の六〇年代闘争」の開始を目指すものとして、自己満足的な闘争であるとしてきたのである。

中核派のこのたたかいは